

漁況予報 いわし

第141号

2007年5～6月漁期
(2007年5月14日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月が23トン、4月が7トン(速報値)で、前年同期(3月:13トン、4月:6トン)を若干上回りましたが、依然として低調な状況が続いております。

魚体は、3月が大羽マイワシ(2005年級、2歳魚、18～20cm)、4月中羽マイワシ(2006年級、1歳魚、14～17cm)主体となりました。

また、4月中旬から、江の島から横須賀市長井地区周辺の定置網でカタクチイワシにヒラゴが半数程度混じることがありました。

佐島地区のまき網は、3月上旬に1ヶ統が合計9トンを漁獲しましたが、4月にはほとんど漁獲はありませんでした。餌イワシでは、4月の下旬にカタクチイワシにヒラゴが混じり始め、徐々にヒラゴの割合が高くなっています。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、3月が71トン、4月が、170トン(速報値)で、前年同期(3月:686トン、4月:1,138トン)を大きく下回り、今後の資源動向が気に掛かるところです。

佐島地区のまき網は、3月には漁獲がなく、4月下旬から餌イワシの漁獲が始まりました。

魚体は、11～13cmの小型～大型成魚が主体でしたが、この時期としては珍しく9cm未満の未成魚が混じることがありました。

【しらす】

3月11日に解禁した相模湾のシラス漁は、例年漁獲量が少ない解禁直後から湾全域で好漁となり、3月の漁獲量は2000年以來の高水準となりました。また、過去2年間、春漁が低調であった江の島以西の湾奥部では特に豊漁となりました。

当初、春シラスの親となる沖合域のカタクチイワシの大型成魚の資源水準がやや低いため、春漁はやや不漁と予測しました。好漁になった原因について考察すると、産卵時期が通常より早くシラスの来遊が早まったこと、黒潮が予測よりもシラスの流入に悪影響を及ぼす流型とならなかったこと、シラスの群れを分散させてしまうカタクチイワシ成魚の来遊が非常に少なかったこと等が挙げられます。

沖合域の親資源は低水準であるため、6月までの春シラスの総漁獲量は多くないと考えられますが、湾内における産卵が例年より早く確認されており、この湾内産のシラスが漁獲され始めれば好漁は継続する可能性があります。

＝ 予報 ＝

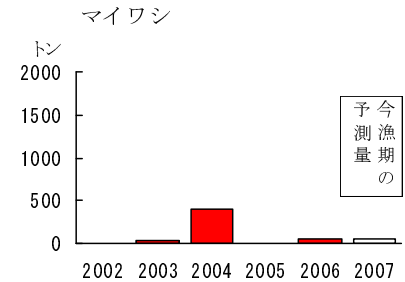
まいわし

今漁期は、中羽イワシ(1歳魚2006年級群)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、太平洋系群の資源量指数値から、定置網を主体に約51トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

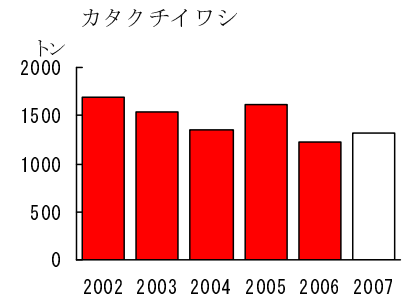


かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、大型成魚資源量指数値から、約1,325トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網



しらす

今漁期は、4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

大型成魚資源量指数値は低いため、大型模な来遊は見込めないでしょう。

今漁期の漁獲量は、約100トンと予測されます。

卵分布調査から、例年よりも早く湾内の産卵が始まっていることから、漁獲量が予測値を上回る可能性があります。

